



2020年5月27日

各位

会社名 ワシントンホテル株式会社  
代表者名 代表取締役社長 内田 和男  
(コード番号:4691 東証第二部、名証第二部)  
問合せ先 取締役経理財務部部長 森 良一  
(TEL. 052-745-9036)

### 連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の連結業績と前期実績値に下記の通り差異が生じたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 通期連結業績数値と前期実績値との差異（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 21,410	百万円 2,988	百万円 2,836	百万円 1,704	円 銭 168.81
当期実績(B)	19,786	1,269	1,218	408	37.06
増減額(B-A)	△1,624	△1,719	△1,618	△1,296	—
増減率(%)	△7.6	△57.5	△57.1	△76.0	—

#### 2. 差異の理由

##### (売上高)

プラス要因としては、前期に新設した2ホテル（R&B ホテル博多駅前第2、R&B ホテル京都四條河原町）の通期稼働による増収分約308百万円、及び当期に新設した2ホテル（R&B ホテル名古屋新幹線口、R&B ホテル仙台東口）の純増分約370百万円がありました。

一方でマイナス要因として、新型コロナウイルスの感染拡大影響（イベント自粛要請や、緊急事態宣言の発出等、企業・個人の活動自粛が拡大し、宿泊・飲食需要が急激に減退した影響分）により、第4四半期（1-3月）の客室稼働率は47.5%（前年同時期実績73.7%）となるなど、売上高への影響は約△1,540百万円と見ております。その他、東京や大阪、名古屋、京都といった主要都市を中心としたホテル供給増加や、台風、日韓関係悪化の影響等により国内外の宿泊需要が伸び悩み、需給関係が厳しくなった影響分が約△762百万円あったと見ており、売上高は前事業年度を下回る結果となりました。

(営業利益、経常利益)

経費面では、新型コロナウイルスの影響による急激な売上減少を受け、雇用調整や営業時間の短縮、客室営業フロアを絞っての光熱費の節減、客室物品や食材などの仕入れ調整等、コストの抑制に努めましたが、売上減少に伴う利益減少影響が約△1,339百万円となったほか、ホテル新設やリニューアルによる減価償却費等増加に伴う利益減少分約△216百万円、上場に伴う資本金の増加により外形標準課税適用会社となるなどの上場関連の出費に伴う利益減少分が約△164百万円となる等、営業利益・経常利益が前事業年度を下回る結果となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響が主要因となり、繰延税金資産の回収可能性に関する会社分類が変更となったことから、法人税等調整額が前期よりも約340百万円増加し、親会社株主に帰属する当期純利益が前事業年度を大幅に下回る結果となりました。

以上